

**私にとって言葉は命であり、  
命は言葉そのものです**  
(福島 智)

福島先生は、東京大学先端科学技術研究センター教授のお仕事をされています。

先生は3歳で右目、9歳で左目を失明。14歳で右耳を、18歳で左耳の聴力まで奪われました。「光と音を失った時、突然地球上から引きはがされ、この空間に投げ込まれたように感じました。自分一人が空間のすべてを覆い尽くしてしまうような、狭くて、暗く、静かな世界。その暗黒の真空の中で呻吟していました。」

しかし、指点字により絶望の暗闇世界に言葉が生まれ、そのコミュニケーションを通して他の人とつながることが出来、「それで私はこの世界に存在できている。他社との関わりが唯一の存在証明」とお話されています。

先生のみならず、私たちも独りでは生きられぬ存在です。「言葉」は命です。温かくつながり合いましょう。

(三笠市幾春別 真法寺 杉原真)